H28.12.15　平成２８年度第１回北斗市総合戦略検討・推進会議　要旨

◎司会進行　事務局（会長決定まで）

【事務局／開会、挨拶】
　〇開会に当たり、市を代表して挨拶
　〇委嘱状の机上配布について説明

【事務局／委員紹介】
　〇資料１に従い、委員（２０名）を紹介

【事務局／会長及び副会長の選出】
　〇事務局の指名により、昨年同様、会長、副会長を指名

【会長挨拶】
　〇会長より、会長就任挨拶
　総合戦略を策定してから１年が経つが、大変大きな会議であり、本日１６名の委員にお集まりいただいた。
　私も北斗市の観光基本プランを立てさせていただいたり、いろいろな議論をこれまで会議を通じて行わせていただいている。
　今回は、総合戦略が１年後どういう風に実施されて、どういう効果になっているのかというところを、私どもが計画をかなり色々議論して作ったという経過があるので、それを見ていくということになると思う。
　新聞報道等で聞いていると、国からの様々な支援に対して、各自治体が単に引き受けるというのではなく、十分に活用できる計画を立てて、それをしっかり評価をして次に繋げなければならないという、非常に難しい課題を地方では引き受けている。
　北斗市は非常に良い状況にあると色んな所で伺っており、資料の数値も進んでいると思われるので、その部分を中心に皆様のご意見などを聞かせていただいて、議事を進めていきたい。
　大変恐縮だが、遅くとも正午には会議を閉めさせていただく心づもりで議事を進めていきたいと考えているので、ご協力のほどお願いしたい。
　早速、議事に従い、進めてまいりたい。

◎司会進行　会長（会議終了まで）

【会長／議事】
　(1)地方創生先行型交付金(H27)事業実施報告について
　　〇事務局から、資料２、資料３、参考資料に従い説明
　　・北斗市総合戦略策定事業について
　　質疑はなく、「総合戦略のＫＰＩ達成に有効であった」との評価
　　・北海道新幹線開業・誘客促進促進観光プロモーション事業
　　以下の質疑ののち、「総合戦略のＫＰＩ達成に有効であった」との評価

委員名	発言内容
委員	北斗市としてのプロモーションを実施したということについて、否定するものではないが、単独のプロモーションというものが目立ったのではないかと考えている。 全国の観光地を拝見しながら、プロモーションを実施するにあたっては、道南は道南圏という中で活動すべき、パワーアップするためにも必要ではないか。 単独よりは、函館市や木古内町、江差町、松前町など広域な範囲の中で、道南をアピールするような活動の中では、若干北斗市単独に偏った傾向があったのではないかと思っているので、今後２年度目を迎えるに当たっては、継続のプロモーション実施にあたっては、道南圏のパワーを結集したようなプロモーションが必要であろうと感じている。
事務局	大きな視点で捉えれば、委員の言われるとおりと考えている。その中で、ご承知のように、北斗市の観光資源は函館市、七飯町と比較しても、全国に知れ渡っているものは少ない中で、開業を迎えるにあたって、それらの掘り起こしや磨き上げをしながら、開業を迎えようというスタンスで観光振興に取り組んできたという流れがある。 そういった中で、まずは北斗市の良さを知っていただくところから始めましょうというのが、各種プロモーション活動だったということを説明させていただきたい。 広い観点から観光振興を考えると、委員のご指摘の部分もそのとおりだと思っているので、今後各種プロモーションを展開するにあたっては、ご指摘の部分も踏まえ取り組んでいくところもあると思っている。
事務局	北斗の知名度をあげるということで、広域的なプロモーションを実施していないわけではないが、昨年度、今年度は単独プロモーションを強化してきている。 コンサル研究所の結果によると、知名度が上がっているということではあるが、これに甘んじることなく、広域的に来年度に向けて、各自治体と道で新たな事業を進めていくという話もあるので、これに北斗市も乗って推進していきたいと考えている。

・観光ホスピタリティ向上・受入体制整備事業について

質疑はなく、「総合戦略のＫＰＩ達成に有効であった」との評価

(2) 地方創生加速化交付金(H28)事業の進捗状況について

〇事務局から、資料４に従い説明し、その後以下のような質疑が行われた。

委員名	発言内容
会長	ＫＰＩの指標値について、少し低めに見ているように思う。 ただ、観光入込客数にしても、直販施設の販売額にしても、観光動向にかなり影響を受けるため難しいとは思うが、どのような考えで設定しているか、お聞かせいただきたい。
事務局	会長から発言のあったとおり、ＫＰＩは控えめというか、現実すぎるというように設定していると思われるかもしれない。 この加速化交付金の全体的な目的は、開業にともなって、新駅周辺・駅前の賑わいをつくって、その賑わいを市の観光資源に広がりをもたせて、更には市の産業の特徴である一次産業にも波及させていくということである。 そのため、１つ目の観光入込客数、そこから広がりをどう捉えるかという意味で２つ目の一次産品直販施設の販売額を設定したということである。 もっと複数の経済的な効果を見極められるようなものが出せると良かったのだが、確実に量れるというもので設定させていただいた。
会長	産業連関表や手強い資料を入れていくといいのだが、そうすると硬い計画になってしまうので、そういうこともあるのではないかと思う。

(3) 北斗市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

○事務局から、資料５、資料６－１、資料６－２に従い説明し、その後以下のような質疑が行われた。

委員名	発言内容
委員	雇用増加数の指標値が３００名に対し、現状値が７２名ということだが、通年雇用・正社員の実績なのか。もし途中で辞めた場合や再雇用した場合などのカウントの仕方はどのようになっているか。
事務局	このＫＰＩの設定の仕方は、資料の概要にあるように市の助成事業として立地した企業に対する補助金があり、この補助金の中で雇用増加数を掴んでおり、これは正規雇用・年間雇用としての雇用数となっている。 ただ、その後の退職などは反映しておらず、あくまで補助金を交付した段階での雇用増加数を把握しているものとなっている。
委員	企業立地補助金のところで、市内に工場や事業所が立地している企業ということで、新駅前でなくとも良いと考えているのだが、指標値１００名に対し、助成したのが現状値１３名というのは助成した会社からの聞き取りなのか。 設備投資をせずに、人員増したのは含まれないのか。
事務局	企業立地補助金は、単に雇用だけではなく、設備投資をして、一定数以上の雇用増という要件がある。 その関係の雇用数、実績であると理解いただきたい。 ＫＰＩの設定にあたっては、広く市内の雇用増加というものを把握したい、なおかつ設定したいと検討したのだが、正確な把握ができないという点であったり、新たに北斗市エリアに店舗立地したという形態も様々かと思うため、行政的に補助制度を用意して、その制度によって立地した企業さらには雇用増加というものに限定的に見ているということに落ち着いたという経過がある。
委員	移住・定住の促進なのだが、海外研修生などが住民登録をした場合、その市町村の人口に加算されると思うが、指標の「札幌圏及び道外からの転入者数」の現状値５４７人にはそのような海外研修生は含まれるのか。
事務局	外国人登録者も住民基本台帳人口の対象となるため、人口が増えることになる。 そういう方が北斗市に転入された場合に、どういうふうにここで見ていくかということについては、今の段階では入らないということになると思うが、この点については様々な状況を把握しながら、扱いについては総合戦略の計画終了年度である平成３１年度までの期間中に内部で検討させていただきたい。 また、期間中のＫＰＩの変更、修正も可能であることから、その点も含めて取扱について検討させていただきたい。
会長	資料６－１、６－２について、国の交付金がつかなかったということだが、市の予算措置はどのようになっていくのか、説明いただきたい。
事務局	資料に事業の展開について、１年次目から３年次目まで整理されているが、これはあくまで国の地方創生推進交付金を申請した段階の年次割となっている。 現段階では交付金の対象とならなかったことから、年次割については見直しをしようと思っている。 その中で、予算ということで申し上げると、地域と協議するなかで仮に国の交付金がだめであっても、市として地域の皆さんが自主的、主体的に行うものについて予算面で支援していきますという前提で地域の皆さんと協議している。 ただし、あくまで貴重な財源であることから、一部資料の中にある事業についても見直し、縮小、取りやめというようなものを含めて、今後年末年始にかけて地域の皆さんと最終的にご相談をして、平成２９年度の事業費を決めて取り組んでいきたいと考えている。 地方創生推進交付金の申請にあたっては、これらの事業だけではなく、市の全体の移住・定住促進策ということであげて、その１つのパーツとしてこの２枚の資料をあげている。 北斗市の弱点である、情報発信の弱さというものを踏まえて、まずはこの地域にお越しいただく、交流人口を拡大することから、中長期的には移住・定住の方向にいきたいという説明をしたところである。

委員	運動公園拡充事業の中で、合宿所というものは考えていないのか。
事務局	合宿所というものは考えていない。
委員	自分でも運動公園を利用している中で、トイレや着替えの場所が不便だと考えているのだが、市の方ではどのように考えているのか、お聞きしたい。
事務局	今回拡充する部分としては、グランド２面のほか駐車場、クラブハウスとしてシャワー室、着替え室、会議室そういったものを考えている。 まだ詳細は決まっていないが、そういった施設を造ろうと現在考えているところである。
委員	今日の議題の中で、一番難しい問題なのは、茂辺地・石別地区の創生会議による地域活性化事業になると思う。 実施主体が各地区の創生会議ということで、地域住民が主体ということだが、具体的な実施状況は決まっているのだろうか。
事務局	茂辺地、石別両地区とも、町内会、地域住民を主体とした４０名程度の委員の皆さんと継続して協議しており、茂辺地地区は北斗星のクラウドファウンディングを活用してという動きもあったが、行政側から地域の方に投げかけていって、地域のみなさんも不安を抱えているという思いが一致し、できる範囲のことからやっていくということから始まっている。 茂辺地地区はほぼ毎月会議を開催しており、石別地区は６回程度、茂辺地地区より若干少ない程度となっている。 ただし、補助金があるから事業を行うのではなく、地域の皆さん主体で外に向かって何ができるのかということになっていくと、理想と現実のギャップもある。 そのあたりを継続して詰めさせていただいているところである。
委員	茂辺地・石別地区の事業について国の交付金の申請が却下されたということだが、事業の内容を見ると、お金を出す方から見ると、出さないのではないかと考える。 それは、市としてのまちづくりの具体性、ビジョンが見えていない、その運用を他人に任せている内容の項目が多いように感じる。 そうすると、１つの会社でこういうことを実施したいという予算書をあげてきて、これに簡単にお金を出すだろうかと考えると、もう少し考えたほうが良いという話なると思う。 会議に地元の住民が参加されているということだが、高齢化が進む中では７０歳を超えている方が大半ではないだろうか。 そのような方々に、これからの街の再生づくりの案を出してほしいといっても、簡単には出てこないだろう。 そのことからも、市としてどういう街づくりをするのかというはっきりしたビジョンを明確にした上で、その上で皆さんの意見を聞きながら進めていかないと厳しいのではないかと考えている。 北斗市タクシー観光プランというものを実施したが、件数が少なく、廃止したいという話が観光課からあった。 ただ、このプランは全国に向けて４月からホームページで発信しているのだが、来年度からこのプランは実施しないとの提案がされてきているということで、サービスの提供という観点からも理解ができない。 そういった部分を含めて、ビジョンがこの街として見えないと思い、心配している。 内容を変更するだとか、プランの考え方は色々あると思うのだが、当然前に進んでいる状況なので、改善することもできると考えている。
事務局	２つの地区に対する市としてのビジョンはということは、地域づくり、まちづくりには様々な手法があったり、いろんな構想等があって、正解、不正解はないと思っている。 この地域について、市としてはまずは現実を直視しなければならないという考えに立って、少なくとも現在の皆さんの地域の暮らしを維持できるように、さらには向上できるように、基本的にはその考え方でいる。 その中で、地域の良さというのは、外から見れば気づく点もあり、中からもっと発信しなければならない部分がある。 発信というのは、暮らし的な部分の集落的な地域が故にその地域住民同士のつな

	がりの良さであったり、小さな地域だからこそ引き立つ地域の取組があると思う。 　そういったものを発信していきながら、さらには地域の皆さんが主体的に行う取り組みを市も一緒に加わりながら進めていくことで、現状の暮らしを維持してさらに上向く方向に向かえるように展開をしていきたいという要素として、地域の人であったり、活動であったり、観光的な資源であったりというようなところになると思う。 　それをつなぎ合わせられるように、観光でいう点から線、線から面へと大げさにいうとそういうような進み方ができるようにしていきたい。 　石別地区だけに関して申し上げると、非常に人口も少ない中で人材が限られているというなかで、外からの協力者も募集しながら、マンパワーを入っていただきながら、地域活動を展開していきたい。 　大げさな目標は掲げることはないが、できることから積み上げていくというような基本的にはそのような考え方である。
事務局	観光タクシープランについては、市の方から取り組みに対して廃止というようなことは全く思っていない。 　新たな取組をされているということに対しては、市として支援していくという立場であることから、一緒にコースを考えていくということは今後も支援していきたい。
委員	新函館北斗駅及び周辺における雇用の創出について、民間企業に対する施策ということだと思うが、行政が移住・定住を考えていく上で、外に目を向けると臨時雇用の日額報酬といった枠があり、そうなっているところが多いと感じている。 　意欲を持って、住んで働く。将来に希望を持って、家庭をもつことを考えると、仕事にも意欲を持てるような、働ける環境が整っていないという気がする。 　いろんな状況の中で、将来に不安があると、少しでもいい仕事があれば転職しようかという声も出てくると思う。 　行政自体が、定住・移住、安心して暮らせる暮らしを考えた待遇の仕方も必要ではないかと考えている。
事務局	移住・定住と重要なものとして仕事というものがあり、そして全国的にいわれている正規職員と非正規職員の処遇の格差についての労働側からの問題の投げかけと考えている。 　移住・定住する上で、重要なのは仕事にあると思っている。 　また、仕事という部分をどのように発信していけばいいかということについても考えている。 　移住・定住の志向分析調査を民間事業者に委託しているなかで聞いた話として、移住する人は先にこの街に移るということを決めて、住む場所・仕事は後に決めるということもあった。 　いずれにしても、仕事は重要な要素であるが、函館圏全体でサービス業の従事者が多く、決して所得水準も高くないのではないかというように思う。
委員	新函館北斗駅によく行くのだが、駅のトイレが少ないという声をよく聞くので、一応お伝えしておきたい。
会長	今後とも委員各位から本日のようなご意見を頂戴しながら、総合戦略を進めていきたい。

【会長／その他】

本日の議事はここまでとなるが、その他ということで全体をとおして何かあればご意見を伺いたい。

その他事務局からの連絡事項があればお願いする。

※事務局より、地方創生加速化交付金に関わる検証・評価の時期について説明。（平成２９年４月以降に次回会議開催）

【会長／閉会】

本日の会議を終了する。